

1. 背景とねらい

「飽食の時代」を背景に、高品質・少量消費の流れの中で低コスト・高品質で斉一性の高い肉豚生産が求められている。

これに応えるため、岩手県では昭和45年から農林水産技術会議の指定試験により系統造成を実施した。その結果、昭和55年にランドレース種の「イワテハヤチネ」(以下、L)が、また昭和62年7月に大ヨークシャー種の2系統「イワテハヤチネW1」、「イワテハヤチネW2」(以下W1, W2)が日本種豚登録協会の系統認定を受けた。

そこで、これら2品種・3系統と国立白河種畜牧場・茨城支場で造成されたデュロック種の高能力系統豚「サクラ201」(以下、D)を組合せた三元交雑肉豚を「ハヤチネボーク」と名付け、系統維持群から肉豚生産、流通・消費までの流れを「地域一貫生産」として体系化し産地化を図る仕組みの骨格を指針として提供する。

1. 技術の内容

1) ハヤチネボークの生産体系

ハヤチネボーク生産のための品種及び系統の基本的な交配様式は、雑種強勢効果および形質補完効果さらに品種内系統間交雑による増殖集団(W1×W2, W2×W1)の近交退化防止効果を有効に活用するためL(WW)、(WW)Lの2元交雑母豚(以下、F1母豚)にDを交配する三元交雑肉豚生産までの一連の体系とする。

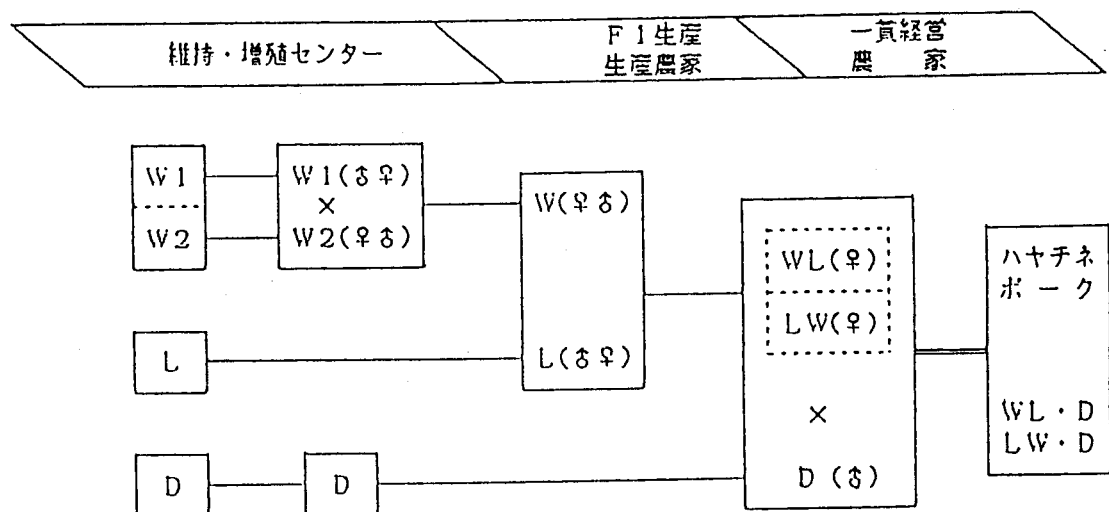


図 ハヤチネボーク生産システムの流れ

表 1. 系統豚（純粋種）の能力

①繁殖成績						
系 統	一 腹 平 均 頭 数	育 成 率	子 豚 平 均 体 重 (kg)	離 乳	日 齢	
	分 娩	(%)	生 時	離 乳		
ハチネ	9.0	8.1	90.1	1.40	9.20	35
ハチネW1	10.7	9.1	95.6	1.14	8.89	35
ハチネW2	10.6	9.1	93.7	1.16	9.06	35
サクラ201	10.2	8.1	88.0	1.34	6.23	30

②産肉能力					
系 統	一 日 平 均 増 体 重	背 脂 肪 の 厚 さ	ロ ー ス 断 面 積	ハ ム の 割 合	背 腰 長 II
ハチネ	841 g	2.40 cm	20.3 cm ²	32.4 %	72.0 cm
ハチネW1	952	2.42	19.8	31.4	69.1
ハチネW2	935	2.54	18.7	31.1	68.8
サクラ201	836	2.82	21.8	32.8	64.9

表 2. F 1 母豚 ハヤチネWLの繁殖能力

供 試 腹 数 (腹)	27
初 交 配 日 齢 (日)	250
初産分娩日齢 (日)	365
一腹分娩頭数 (頭)	10.7
一腹哺乳開始頭数 (頭)	10.3
一腹離乳頭数 (頭)	9.9
子 豚 育 成 率 (%)	96.4
子豚生時体重 (Kg)	1.3
子豚離乳時体重 (Kg)	7.8

- 注 1) 野田村における現地試験（初産成績）
 2) 供試豚：昭和60年7～8月生
 3) 交配種雄豚：サクラ201
 4) 平均離乳日齢：31日

表 3. ハヤチネボーク（WL・D）の産肉性

項 目	性	雌	去勢
供 試 頭 数 (頭)		40	46
出 荷 日 齢 (日)		165	155
出 荷 休 重 (kg)		105	103
1 日 平 均 増 体 重 (g)			
生 時 ～ 出 荷		633	661
30kg ～ 出 荷		780	846
背 腰 長 II (cm)		72.2	70.1
背 脂 肪 の 厚 さ (cm)			
背		1.5	1.9
平 均		2.5	2.9
上 物 率 (%)		75.0	58.7

- 注 1) 野田村における現地試験成績
 2) 供試豚：昭和61年夏期生産豚
 3) 8頭群飼の飼養試験

2) ハヤチネボークの地域一貫生産

ハヤチネボークの銘柄と産地を確立させるためには、純粋増殖、F 1 母豚生産、三元交雑肉豚生産の各段階の農家の有機的なつながりと共に、消費・流通サイドとの産直等、種豚生産から販売までの一貫した体制整備が必要である。

3. 普及上の留意点

- 1) F 1 母豚としてLWと共にWLの積極的な活用を図るべきである。
- 2) 純粋種増殖農場、F 1 母豚生産農場は、ハヤチネボーク生産農場の規模や数に応じて農協間で連携を図りつつ適正な配置をすることが望ましい。